



バラを育ててみたい方に



バラの生育

バラは一般に、1年の中で生育期（3月～11月）と休眠期（12月～2月）があります。生育期は、根から水と栄養を吸い上げて、枝葉を伸ばし花を咲かせる時期。休眠期は、枝の水分を減らして栄養を株全体にためて、春が来るのを待ちます。

バラの一年

- 3月 芽が出始めます。
- 4月 葉やつぼみなどを観察してみましょう。
- 5月 花が咲き始めます。「春のバラは、ボリューム満点」です！！
- 6月 咲き終わった花は、切ってあげましょう。そのままにしておくと実が付き、栄養が実の方に行ってしまう株が弱ってしまいます（花柄摘み）。また、2番花をきれいに咲かすために肥料をあげましょう。肥料は、骨粉入り油粕を50g/株程施します。（お礼肥）
- 7月 2番花が咲きます。虫や病気に注意！
- 8月 土が乾いたら、たっぷり水をあげましょう。
- 9月 秋にきれいな花を咲かせる為に、剪定します。まず枯れ枝、細い枝、古い枝、交叉した枝を取り除きます。次に樹高の1/3程度を切り捨てます。切るポイントは各枝の良い芽の上3～5mmです（秋剪定）。また、秋の開花に向けて肥料をやりましょう。肥料は、骨粉入り油粕を150g/株程施します。（夏の追肥）
- 10月・11月 秋のバラが咲きます。秋のバラは、「色鮮やか、香りは強く、花持ちが良い」、花の色、形、香りを楽しみましょう。
- 12月 つるバラの剪定・誘引の時期です。
- 1月・2月 春にきれいな花を咲かせる為に剪定します。基本的には秋剪定に同じですが、樹高の1/2程度を切り捨て、残っている葉をすべて落とします。（冬剪定）。また、1年の生育の源になる大切な肥料として、骨粉入り油粕を300g/株程施します。（寒肥）

花壇の植え方（大苗）

大苗・・・接ぎ木した苗を畑に植え、翌年の秋まで育ててから掘り上げられた充実した苗。品種が豊富で鉢植え苗（花の咲いている苗）より手頃。

*植え付けのポイント・・・大苗の植え付けの適期は10月～2月、バラを植える場所は、1日5～6時間日が当たり、風通しが良く、水はけがよい土がベストです。

*用意するもの・・・発酵油粕 500g、完熟堆肥または完熟腐葉土 120。

- ① 植え穴を掘ります・・・直径 50 c m 深さ 50 c m の植え穴を掘り、骨粉入り油粕 500 g と 20 の堆肥を入れ、底の土に良く混ぜ込みます。掘り上げた土に、残りの堆肥をよく混ぜ合わせます。
- ② 苗を植えます・・・根鉢をくずし根を広げて置き、堆肥を混ぜ合わせた土で埋めます。その時、株元の接ぎ木部分が埋まらないように気おつけて下さい。
- ③ 水をやります・・・苗の周囲を丸く囲むように土を盛り上げた水鉢を作り、水鉢にたっぷり水を注ぎます。水が引いたら、再び水を注ぎ入れ、根元に土を盛るように土を寄せ終了です。

鉢植えの方法（大苗）

*植え付けのポイント・・・最初から大きな鉢には植えないようにしましょう。植わっていた鉢よりも 2 号ほど大きい鉢を準備します。2 年に一度は土を替えてあげましょう。

*用意するもの・・・用土（赤玉土小粒 7、完熟堆肥または完熟腐葉土 3 の配合土、または市販のバラ専用用土）、鉢底石、鉢（7 号）、不織布。

- ① 苗を植えます・・・鉢底石を 1 層入れ、その上に用土の流失を防ぐため、不織布を敷きます。用土を入れ、鉢の中央に根鉢をくずし根を広げて置き、用土を加えます。株元の接ぎ木部分が埋まらないように気おつけて下さい。
- ② 水をやります・・・鉢底から汚れ水が出なくなるまでたっぷり水を与えて終了です。
- ③ 植え付け後の管理・・・日当たり、風通しの良い場所で管理しましょう。

*鉢植えの施肥

鉢の縁に置いたり、埋め込んだりして肥料を施します。寒肥（12 月下旬～2 月下旬）として、親指大の固形発酵油粕を施す場合、7 号鉢で 2 個、8 号鉢で 3 個、10 号鉢で 6 個が目安です。お礼肥や夏の追肥の意味も含めて、3 月～10 月に毎月 1 回、寒肥と同様に肥料を施しましょう。

さあ、素敵なばらを育てて下さい！

参考：NHK 出版 バラ大図鑑、福山バラ会 「バラを素敵に咲かせよう」

新宿御苑のバラを作る人と語るガイドウォーク
グリーンアカデミークラブ